

## 第5学年〇組 道徳学習指導案

指導者

- 1 主 題 名 分けへだてなく 高学年4-(3) 公正・公平  
資 料 名 「男泣きの反対は女泣き？」 (ぬくもり)

### 2 主題設定の理由

○ 本主題は、「だれに対しても差別することや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。」ことを主なねらいとしている。正義の実現には、社会的な認識能力と人間の平等観に基づく人間愛が基本となる。

そこで、身近な差別や偏見に気付き、公平で公正な態度を養うことを通して、正義の実現について自覚を深めることは大変意義深いと考える。

○ 本学級の児童は、「男だから」「女だから」というような差別的な決めつけをすることはほとんどない。しかし、一学期の家庭科の学習で「家庭の仕事調べ」を行った際、家事などの仕事はお母さんが担当していると答えた児童が多く、そのことが当然という受け止めをしている実態があった。これは、「家庭の仕事は女性がする」という役割を決めつける風潮があるのではないかと考える。

そこで、このような時期に男女の職業に対する固定観念をもつことのおかしさに気付き、公正・公平にものごとを考える力を育てることは意義深いと考える。

○ 本資料は、二つの文例をあげて、使われている言葉だと思うものを選ぶ活動を通して、日本語の中に残る女性に対する決めつけのおかしさに気付くとともに、現在の職業に対する男女の価値観の変容に気付くことができる資料である。

本時指導にあたっては、写真や例文について自分なりに考え、家庭や社会に今でも残る女性に対する決めつけについて気付かせたい。導入段階では、大工仕事をしている男の人達の写真を見せ、男が大工仕事をするという固定概念を引き出す。さらに女性の木工の写真も見せることで、自分の中にある、大工仕事は男がするという決めつけに気付くきっかけとしたい。展開前段では、二つの文例を読み、昔から使われている言葉の意味を知り、男女の偏見について考えさせていく。また、「男泣き」に対して「女泣き」という言葉がないことをどう思うかについて考えさせる。その中で、決めつけのおかしさを理解させ、差別や偏見をもつことなく、公正・公平な態度で生きていこうとする価値を把握できるようにする。展開後段では、価値の一般化を図るために、日常生活において、職業などに対して公正・公平な態度でとらえていたかを振り返り、知的理解ではなく価値を内面的に自覚できるようにする。終末では、〇消防署〇〇出張所に勤めているゲストティーチャーの〇〇〇〇さんに「性別にとらわれることなく一人の人間として仕事に向き合っていること」を話していただき、児童のこれからの生活における男女の固定概念をくずし、男女や職業について公正・公平にとらえようとする意識の継続を図る。

### 3 本時のねらい

昔からある男女の決めつけのおかしさに気付き、偏見をもつことなく公正・公平に努めようとする心情を育てる。

- 4 本 時 平成20年11月19日(水) 第5校時 第5学年〇組教室に於いて

### 5 地域との関連(地域のひと・もの・ことの活用)

地域題材:ぬくもり 地域人材:〇消防署〇〇出張所

- 6 準備 道徳ノート、挿絵、問題を書いた模造紙、国語辞典

7 展開

| 階       | 学 習 活 動  | 指 導 上 の 留 意 点  |
|---------|--|--|
| 導 入     | <p>1 大工仕事をしている人達の写真を見て、学習のめあてについて話し合う。</p> <p>(1) 大工仕事をしている人達の写真を見て、大工のイメージをつかませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 力仕事をしている。</li> <li>○ 高い所に登っている。</li> <li>○ 男の人が多い。</li> </ul> <p>(2) 大工の仕事をしている女性の写真を見て、思ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ びっくりした。</li> <li>○ 大工は男だと思い込んでいた。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ねらいとする価値への方向付けを図るため、大工の仕事をしている男女の写真を見せて、思ったことを出させる。</li> <li>○ 大工仕事は男だという児童のもつ固定観念を出させる。</li> <li>○ 大工仕事は男がするものだという児童の思い込みに気付かせるため、女性の木工の写真を貼る。</li> </ul>                                |
| 展 開 前 段 | <p>2 身近に使われている女性に対する決めつけについて話し合う。</p> <p>(1) 自分なりに考えを出す。</p> <p>(2) 2つの文例に反対語がないことを知り、そのことに対する考えを発表する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 文例に反対語がないことを知る。</li> <li>② 「男泣き」の反対語がない理由について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 女はよく泣くから、めずらしくないのではないか。</li> <li>○ 男の人が泣くのはおかしいから、男泣きという言葉があるのだと思う。</li> </ul> </li> <li>③ 「男泣き」の反対語がないことに対してどう思うか話し合う。</li> </ol> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「男泣き」「男まさり」の反対語について話し合うために資料を提示する。</li> <li>○ 自分の偏った見方に気付かせるために反対語がない理由について気付かせる。</li> <li>○ 「男泣き」「男まさり」の反対語がないことを知るために国語辞典を使用する。</li> <li>○ 「男泣き」は決めつけとして使われている言葉であることを理解させる。</li> </ul> |
| 展 開 後 段 | <p>3 自分自身のことを振り返る。</p> <p>(1) 今までに女と男で決めつけていたことや、決めつけられたことはないか。またその時の気持ちについてノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「男のくせに泣くな」と親に言われた。</li> <li>○ 「掃除は女子がするものだ」と言った。</li> </ul> <p>(2) 発表する。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活の中で、女と男の「決めつけ」がなかったかを思い出して、ノートに書かせる。</li> <li>○ 机間巡視をして、何を書いてよいか分からない子どもに場面を想定させる。</li> </ul>   |
| 終 末     | <p>4 ゲストティーチャーの話を聞く。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話を聞くことを通して男女の決めつけに対する意識を高める。</li> </ul>   |

8 板書計画

めあて

女と男の「決めつけ」について考えよう。

「男泣き」の反対は「女泣き」？

◎女泣きという言葉がないことについてどう思いますか。

- ・力仕事。
- ・力持ち。
- ・男の人が多い。
- ・びっくりした。
- ・男だけかと思った。

男の人が泣くのはおかしいから、男泣きという言葉があるのだと思う。

- ・女はよく泣くから、めずらしくない。
- ・女の人は弱いから、女泣きという言葉がない。
- ・性格の問題なので男も女も関係ない。
- ・女の人でも、あまり泣かない人はいるので、女泣きという言葉があってもいい。

自分の生活をふりかえり、「女」や「男」で決めつけたり決めつけられたりしたことはありませんか。

○ ○ ○ ○

9 道徳ノート

道徳ノート

五年組 名前

めあて

「男泣き」の反対は「女泣き」？

◎女泣きという言葉がないことについてどう思いますか。

○ 今までに「女」と「男」で決めつけていたことや決めつけられたことはありませんか。

-----

-----

-----

-----